kosei
生かされ、生きるチカラ。

夫の旅立ちを悔いなく見送って。

佐世保教会　出井利依さん

出井さんは結婚当初から夫の飲酒ぐせに悩まされてきた。年に数回、仕事にも行かず酒浸りなる夫。そのため、出井さんが早朝から夜遅くまで働き、家計を支えていた。酒さえ飲まなければ、子煩悩でやさしい夫なのだが…。七十路の坂を越えても、変わらない夫を責める気持ちが一層つのっていた頃、「肴を作って、お酌をして、“おいしいお酒”を飲んでもらったら」と意外なアドバイスを受けた。疑いつつも実行すると、いつもと違いうれしそうに飲む夫。その姿を微笑ましく思える自分がいた。酒が理由のけんかはあっても、こんなにほのぼのとした時間が過ごせるなんて…。酒量もぐっと減って、家庭の雰囲気も一変した。しかし、喜んだのもつかの間、夫は、長年患っていた糖尿病が原因で突然他界。呆然とするなかでも夫婦の人生を振り返る。もし、冷たい態度をとったままだったら―「夫は私がやさしくなるのを待っていてくれたのかも」と思え、後悔なく別れを迎えられたことが、本当にありがたかったと語る。

香る風のような人に

春の花の代表格は桜ですが、桜の花を見るよりも先に、梅や沈丁花や辛夷の甘い香りをのせた風に、春が訪れた喜びを実感する人も多いのではないでしょうか。

その喜びに通じる言葉が、法華経の「序品」にあります。「栴檀の香風　衆の心を悦可す」――この一節を本会の開祖（庭野日敬）は、「仏さまの香風が衆生の心の中に入ってくると大歓喜が生じる」と、簡潔に説明しています。

仏の教えに出会えた私たちは、その教えを聞き、学び、実践していくなかで、数々の気づきを得ます。いやだと思っていた人やものごとに感謝ができるようになったり、それまで幸せだと感じていたことは自己中心の思いにすぎなかったと気づいたりして、生き方が変わるのです。そうしてほんとうに大切なことに気づき、悩みや苦しみから解き放たれた悦びを、私たちは「教えによって救われました」と、思わず口にします。それが、「大歓喜が生じる」でしょうし、そのときその人は「悦可」しているのです。

私たちは、仏さまにお目にかかることはできません。ただ、教えのなかに仏の慈悲を感じとり、その教えを実践することによって生きる喜びに目ざめた人の話を聞くと、私たちもまた悦びを覚えます。それは、「栴檀の香風　衆の心を悦可す」の経文どおり、教えの尊さが胸中に吹きわたるからだと思います。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615